



WAM助成事業（令和6年度補正予算）

事業報告書

子どもたちの食と学びの保障、継続的支援基盤づくり事業

事業実施期間

令和7年4月～令和8年3月



ごあいさつ

かわたな夢キッズとして居場所づくりプロジェクトを立ち上げてからまもなく3年、法人化してから2年半になります。

R6年度よりWAM助成を活用させていただいて立ち上げた自由楽校ゆめまあるや付随する活動。2年目となる今年度も独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業（令和6年度補正予算）のご支援をいただき、不登校のこどもたちや保護者のみなさん、さらにはひとり親家庭や学校の教職員などとの接点も増やし、様々な形で活動を展開することができました。

ここに1年間の事業を報告いたしますとともに、この報告書がこどもたちの笑顔と成長の記録として、また地域のみなさまとの連携をさらに深めるきっかけとなれば幸いです。



一般社団法人かわたな夢キッズ
代表理事 荒瀬 奈穂子



VISION

- すべてのこどもたちが大切にされ、生まれてきたことを幸せに感じながら心豊かに育つことのできる社会
- 人・場所・環境がゆるやかに共生し、支え合い、喜び合えるあたたかな地域

MISSION

- 安心してつながれる『居場所』をつくります
- 包容力のある『地域』、誇りに思える『地域』を育みます
- 『居場所』×『地域』でこどもたちの多様な育ちを応援します

事業の背景

川棚町：（令和8年2月末時点）／全国：文部科学省調査（令和7年10月29日発表 ※最新）

小学校・不登校割合

4.52%

全国平均 2.30% **+2.22pt**
約22人に1人（全国：約44人に1人）

中学校・不登校割合

8.64%

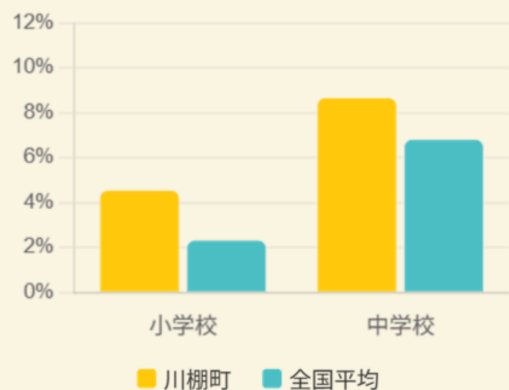
全国平均 6.79% **+1.85pt**
約12人に1人（全国：約15人に1人）

小中合計・不登校数

57人

在籍966人中 割合 5.90%
約17人に1人

全国平均との比較（%）



川棚町の不登校割合は小学校・中学校ともに**全国平均**

を上回っており、地域における支援拠点の整備は喫緊の課題です。

ゆめまあるでは川棚町と近隣地域含む不登校のこどもたちが社会との接点を失い孤立しないための居場所機能を重視し、川棚町内14名、町外8名、**年間延べ1663名**を受け入れてきました。

事業の柱

今年度は、4つの柱にて事業を展開しました。

不登校の課題解決には、こどものケアと併せて、関わる大人の息抜きや学びもとても大切だと考えています。

居場所(ゆめまある)を中心に、親のための場(親の会)、親子一緒に関われる場(親子の会)、そしてセーフティネットとしてのひとり親の会も新たにに加え、私たちの事業の土台を築くことができました。

ゆめまある

こどもの居場所

1663名

親の会

親の茶話会・学びの場

96名

親子の会

親子での体験活動

276名

ひとり親の会

食材等配布・相談

83家庭

※ここで言う不登校の課題とは学校に通えないことそのものではなく、本人が安心して学び育つ環境が整っていないこと
※人数（家庭数）は年間延べ数



自由楽校 ゆめまある



居場所『ゆめまある』の開所・運営

- 【期間】 R7年4月～R8年3月（週4日）
- 【登録者数】 23名
- 【延べ利用人数】 1663名（179日）
- 【内容】 昼食提供・学習支援・調理体験・
集団遊び・外遊び・制作活動等
- 【成果と課題】



1年目と同様、学校でもない家でもない第三の居場所として

「居たい」「行きたい」「やってみたい」が生まれる場を大切に運営してきました。

居場所ができてすぐのころは一緒に居場所をつくってきたメンバーが多かったけれど、次々と新しいメンバーも加わり、こどもたちの中で様々な関わり合いが生まれ、そのたびに揺らぎながらも前向きに関係性を築こうとしているこどもたちの姿が印象的でした。

アンケート結果にも表れているように、ほとんどの子に前向きな気持ちや行動の変化があり、居場所の空気感も有り余る元気で満たされるようになってきました。

こどもたち自身で自発的に様々な遊びや関わり合いを生み出し、話し合いによって決めごとをしたり、問題を解決できる力もついてきました。



- ・全てにおいて自信がないと話していた子が昼食づくりを通して自信を育み、友達へのプレゼントをつくりたいと苦手な工作にも自ら取り組んだこと。
- ・ゆめまあるの友達と一緒に学校に行ったり学習に取り組むようになった子たち。
- ・コミュニケーションが苦手だった子が公園で知らない子を巻き込んで遊べるようになったこと。
- ・嫌なことがあった時、反抗的な態度ではなく話し合いで折り合いをつけられるようになった子。

- ・外部の企画に参加したり、人前で発言したりできるようになった子たち。
- ・同年代との関わり方がわからず苦手と言っていた子が、率先して大笑いしながら同年代とも遊ぶようになったこと。
- ・分離不安が和らぎ、親がいなくても平気になった子。

あげればキリがないほどの成長がありました。

これからも丁寧にこどもたちの声を聞きながら、心身の安定につながる居場所を目指していきたいと思えます。





親子の会



親子での体験活動

【期間】 R7年4月～R8年3月（月1回）

【延べ参加人数】 276名

【内容】 以下の体験活動

月	内容	参加家庭	参加人数
4月	性のお話会・フルーツポンチづくり	8家庭	20名
5月	海底湧水お塩づくり	8家庭	20名
6月	ポップコーン・映画観賞会	7家庭	18名
7月	スイカ割り・花火	10家庭	25名
8月	沢登り・星空観賞(宿泊体験)	12家庭	27名
9月	体育館で遊ぼう	10家庭	26名
10月	芋ほり	10家庭	24名
11月	バイオパーク遠足	9家庭	27名
12月	ピザづくり	9家庭	25名
1月	お餅つき	10家庭	26名
2月	クッキング	4家庭 8	14名
3月	シュシュ工房体験	9家庭	24名

【成果と課題】

親子の会は親子で行うちょっとチャレンジ要素もある体験活動です。

目的は

①不登校により体験機会の乏しい子どもたちが様々なことに出会い挑戦できるきっかけ。

②子どもとともに楽しめる時間をつくることでの親子関係の向上。

③地域との連携の中で行うことで、地域理解を促進し協力関係づくりのきっかけにする。

など複数の目的を兼ねています。

今年度一番の参加率＆満足度だったのは沢登りと宿泊体験でした。虫も多く足場も悪い中でしたが、全員が助け合って登りきることができ、「うちの子にこんなに体力があったとは！」「友達と登りきる姿に成長を感じた。」などという声が聞かれました。





ひとり親の会



食材等配布・つながりの場づくり

- 【期間】 R7年4月～R8年3月（月1回）
- 【対象】 ひとり親×不登校（行き渋り含む）のご家庭
- 【延べ家庭数】 83家庭
- 【内容】 食材等配布（8回）／食事会（2回）
- 【成果と課題】

食材・日用品の配布を入り口として、実質的な経済負担を軽減し、なかなかゆめまあるに来られていないご家庭とのつながりも継続できたことに加え、お届けしたご家庭では定期的にお子さんの顔を見て会話でき、困ったときの相談につながったケースも生まれました。

また、お食事会では、ゆめまあるになかなか来れていない子が場に慣れるきっかけづくりになったり、「娘が人前で初めて食事できた」「ひとり親だとなかなかパーティーもしないのでみんなでにぎやかに過ごせて嬉しかった」という声もいただきました。

長期化する不登校に一人で悩むママの息抜きにもなり、「一人じゃない」と感じていただけたようでした。

番外編

学習会の試み

当初、ゆめまあるの開所時間内にて実施していた学習支援。塾講師の先生や教職経験者、実験の先生、AIの先生などに、様々なやり方で子どもたちの興味に応じて対応していただきましたが、そもそもゆめまあるは何かを強制する場所ではないため、試行錯誤を繰り返していました。ある時「勉強がしたくないわけじゃなくて、ゆめまあるの時間はおもいっきり友達と遊びたい。時間が足りない！」という子どもからの声があがったため、時間帯を分けて開催してみることに。勉強したい子だけおいでと強制はせず、その時間は「勉強のために来る」という空気を作れたことで、驚くほどの自主性と集中力を発揮できるようになりました。また、安心の関係性の中で、「やる」「やらない」「今日はここまで」「もっとやりたい」と自分のペースをそれぞれが口にできるようになったことも、互いを認め合えることも、生きづらさを感じがちな子どもたちにとっては大きな一歩だと感じることができました。今後も子どもたちとともに柔軟に成長できる居場所でありたいと思います。





こども アンケート結果



ゆめまあるはあなたにとってどんな場所？

中学生

自己肯定感上がる場所、学校と家の間

ゆっくり楽しくすごせるばしょ

色々助けてくれたり、相談にのってくれた場所。自分は、島根の紹介をしてくれたおかげで、変わったので、感謝しています。

認めてくれる居場所

たのしいばしょ

小学4～6年生

いろんなことがあるけど、ゆめまあるに来て本当よかったです。なおちゃんいつもありがとう。

落ち着き安心する場所

みんなとおちついて会話できる場所

ともだちとあそぶ場所

たのしい

小学1～3年生

たのしい

あんしんできるばしょ

遊ぶ場所

たのしいばしょ

おちついたり楽しい所

たのしいばしょです。

ゆめまあるは一人の時間もあって、みんなと遊ぶ時間もあって、とても楽しい場所で落ち着くところです。

いきたくないときもある





こども アンケート結果



ゆめまあるはあなたにとってどんな場所？

中高生

自己肯定感が上がる場所、学校と家の間

ゆっくり楽しくすごせるばしょ

色々助けてくれたり、相談にのってくれた場所。自分は、島根の紹介をしてくれたおかげで、変わったので、感謝しています。

認めてくれる居場所

たのしいばしょ

小学4〜6年生

いろんなことがあるけど、ゆめまあるに来て本当よかったです。なおちゃんいつもありがとう。

落ち着き安心する場所

みんなとおちついて会話できる場所

ともだちとあそぶ場所

たのしい

小学1〜3年生

たのしい

あんしんできるばしょ

遊ぶ場所

たのしいばしょ

おちついたり楽しい所

たのしいばしょです。

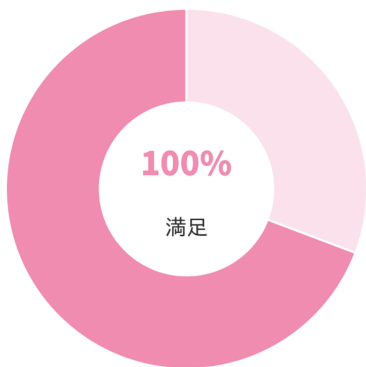
ゆめまあるは一人の時間もあって、みんなと遊ぶ時間もあって、とても楽しい場所で落ち着くところです。

いきたくないときもある



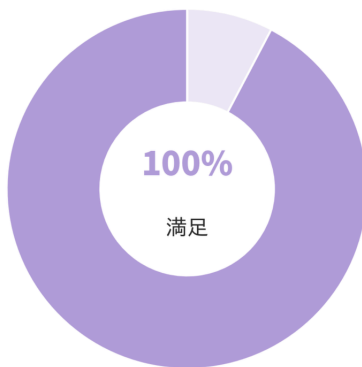
保護者 アンケート結果

ゆめまある満足度(n=13人)



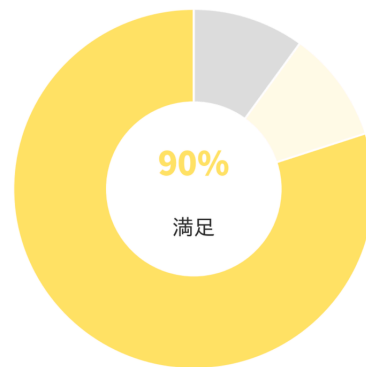
5点:9人(69.2%)
4点:4人(30.8%)
1~3点:0人

スタッフ対応満足度(n=13人)



5点:12人(92.3%)
4点:1人(7.7%)
1~3点:0人

お子さんの前向きな変化(n=20人)



5点:16人(80%)
4点:2人(10%)
1~3点:2人(10%)

子どもたちが、学校やほかの場所でも人と話すことが楽になった、コミュニケーション能力が上がったと感じているようです。ゆめまあるの皆さんが温かく受け入れて下さっているのがこの変化があったと思います。

学校に行かないことで親も子どもやり場のない気持ちの日々からゆめまあるさんへお世話になる事で、笑顔で過ごせる日がある事に気がつきました。余裕ができたと思います。学校に行くのも、以前のように悲しい気持ちで無理やり行く、行かせるということではなくなったので、前進したのではないかと思います。

週に一回学校に行けるようになり、自信につながっているように思います。家でも以前より自分の気持ちを素直に言うことができるようになってきました。周りとは比べず、親も一緒に成長していけたらと思います。

通うのをとても楽しみにしてくれていて安心して送り出せます。色々な経験や初めての人の関わりがたくさん持てて、いつの間にか知らないうちに成長していったなあと感じます。先のことを考えればまだまだ不安ですが、今の子どもの成長を喜ばうと思います。

もうすっかり親子ともに心身ともに安定している日々です。子ども達が安心できる場所としてとてもありがたい場所です。心が安定し余裕ができる事で相手を気づかう事ができるようになってきていると思います。スキンシップやコミュニケーションなど増えてきていると思います。

ゆめまあるのお友達と学校に行くようになった。友達の力は大きい。また、ゆめまあるの学習会で久しぶりに集中して勉強している娘の姿を見ることができた。算数で好きな分野が見つかりそれが嬉しかったよう。

ひとり親ですが、子どもが安心して通える場、ごはんも食べさせてくれる場があることで、仕事も安心して増やすことができました。この場所がなかったらと思うとかなり行き詰まっていたと思います。感謝が尽きません。

他のフリースクールと比べて、お昼ごはんや様々な体験活動もあり、学習も子どものペースでしてくださり、子どもにも親にも寄り添ってくださって、正直この料金ではあり得ない。本当に感謝しています。子どもは通うことを毎日楽しみにしています！

自らの希望を口に出すことのなかった娘が、ゆめまあるだけは「明日も行っていい？」と聞いてきます。「行きたい」と言える居場所ができたことが今の土台になっていると思います。

何かあった時すぐにフォローして下さるゆめまあるのみなさんには感謝しています。親の心の不安をわかって下さる方々に出会えてよかったです。

何かあれば直ぐ相談できる環境がありがたい。子ども達はいろんな学年の子と遊んでいるので、お友達と協力したり順番を待ったり社会性が身につけていると感じる。

まだ数回しか行けてませんが、息子は「今日ゆめまある行ける？」と言います。息子にとって、とても気持ちが上がる場所、楽しい場所になっています。本当に有難うございます。

視察研修報告

今年度は、「多様な学び保障」「行政連携・地域連携による格差を生まない環境づくり」を目指して、まずは私たちの価値観をアップデートし、より公益的で持続可能な活動や提案につなげていくため、行政連携・地域連携のモデルとなる取り組みをされている先駆団体への視察及びリーダー研修を行いました。先駆団体さまの多岐にわたる実績から、効果的な事例やノウハウを学習しましたので、特に大きな学びにつながった点を抜粋してここにご報告いたします。ご協力いただいた皆様に心より感謝を申し上げます。



研修① 地域と子どもを巻き込んだ場づくり

【訪問先】 川崎市子ども夢パーク
フリースペースえん
【研修講師】 西野博之氏・友兼大輔氏



川崎市子ども夢パークは、ゆめまあるの土台となる考え方を実践されているプレーパークです。2000年に制定された川崎市子どもの権利に関する条例を体現する場として生まれた公設民営の場所で、その一角にフリースペースえんという不登校の子どもたちの登録制の居場所もあります。ここでは基本的な場の在り方から地域連携のヒントなどを学ばせていただきました。

●関わる人の多さ、地域に根づくということ

夢パークには、木工、化学、フォルクローレ、学習、遊具を作る指導まで、様々なスキルを持った地域の大人が密に関わっています。

場の意義や在り方、子どもたちとの関わり方をしっかり理解した上で共に歩んでくれる方々の存在は夢パークの強みであり、そして私たちの大きな課題点でもあります。

そこで、この環境をどのようにして実現したのかと質問したところ、その背景に夢パーク支援委員会の存在がありました。これは夢パークがオープンする前の運営準備会がもとになっており、立ち上げ前の段階から市民参加で組織していることもとても大きいと感じました。最初から理解ある大人だけで組織するのではなく、地域の方たちにいかに自分ごととして巻き込まれてもらうか、そこを意識したチームづくりの視点を学ばせていただきました。また、後から出会ってくれる方に対して、「権利条例に基づいてつくられた場所」であることを明示していることと、公設である信頼感が後押しとなり、理解のある大人が長期的に協力してくれているとのこと。「権利条例に書いてあるから」という一言でたいへいのは前向きに理解をしていただくことができるという言葉に、基礎基盤となる考え方を行政や市民の方々と共につくることの意味を感じました。また、地域の祭りやイベントへもスタッフが積極的に参加し、自治会の方々と持ちつ持たれつがあるというお話もあり、これはすぐにできるポイントとして、今後積極的に自治会とも関係構築をしたいと思いました。

●声の聴き方

場や条例をつくるにあたって、子どもたちの声をどのように聴き、取り入れてきたかをお聞きしました。

条例づくりの時は、貧困家庭も多い中、お弁当を用意したことで多様な子どもたちが集まり、幅広く声を集めることができたとのこと。そういった、一見軽視されがちな部分で、細やかな工夫や配慮を感じました。

夢パークでは利用者の意見・情報交換の場や、川崎市子ども会議など様々なミーティングがありますが、現場で見えたのは、夢パーク内のいたるところで目にしたご意見募集。様々なかたちで声を届けやすくする工夫が感じられました。

声に出せない子への配慮としても、その場に関わる全ての人の声を集めるためにもとても良い方法だと感じ、ゆめまあるでもすぐに取り入れました。



●行政との「ゼロ距離」な関わり方

どろんこパークとも言われる夢パークにまだ温水シャワーがなかった頃、首長と一緒に泥まみれになって遊んだ後に冷たい水のシャワーに驚き、これに長蛇の列ができる日もある、楽しく遊んだ後に冷たい水で泣いてしまう子もいるという話を聞き、その後すぐに温水シャワーを設置してくれたというエピソードが印象的でした。首長自らが同じ目線で場を体感することで、本当に必要なものが見えてくる。公設であることの強みと、ゼロ距離な関わり方の大切さを実感しました。

また、教職員が研修として「フリースペースえん」に入ることで不登校への理解が深まり、学校と居場所がともに子どもたちの最善の利益を考えた協力体制を築きやすくなっていることも大きな魅力として感じました。



●場の広さとコンセプト別空間の意義

夢パークで真っ先に感じたのは、そこで過ごす子どもたちの多様性です。広い敷地に自然環境・屋内・屋根付き屋外があり、コンセプト別の部屋もあることで、どんなタイプの子どもにとっても居心地の良い場所を見つけられる工夫となっていました。年齢も様々、走り回りたい子にもものんびり静かに過ごしたい子にも居心地がいい空間設計です。

そんな中フリースペースえんだけが会員制で守られた区画になっていることも、不登校の子どもたちの安心感につながっていると感じました。ゆめまある以外の居場所がない川棚町だからこそ、できるだけインクルーシブに、どんな子も受け入れられる空間づくりのヒントを、現場でしか得られない体感として得ることができました。



研修② 官民連携・持続可能な仕組みづくり

【訪問先】 特定非営利活動法人 多様な学びプロジェクト
【研修講師】 生駒知里氏（多様な学びプロジェクト代表）
青木智宏氏（ベネッセ子ども基金事務局長）



多様な学びプロジェクトさんは、すべての子どもが自分らしく育ち、安心と幸せを感じられる社会を目指し、「多様な学び」をみんなの当たり前にするために様々な取り組みをされている先駆団体です。地域に根差した街のとまり木マップ、全国を対象にしたとまり木オンライン、そして政策提言など、様々な視点を持ち、持続可能な活動を展開されている当団体の代表の生駒さんと理事の青木さんにお話を伺ってきました。

●行政連携の進め方

行政から「連携したい」「話を聞きたい」「居てくれて助かる」と言われる存在になることが行政連携の近道。“行政の人”という手前にある“その人”の背景や目的、課題は何なのか、それをヒアリングすることからはじまるという視点を学ばせていただきました。

どちらかがどちらかにお願いをするというような上下関係ではなく、フラットにWIN-WIN関係を築けるようになるためには、相手の目指しているもの、困っていることを知り、そこと重なる部分に関して、「私はこんなことで力になれるかもしれない」という形で提案を考えるというプロセスは、とても具体的でわかりやすく、抜け落ちている視点に気づかせていただくことができました。

民間から行政へ協力を求めるとき、「理解されない」と感じてしまいがちですが、「行政の求めていることを叶えられる存在」という立ち位置を意識することが大切。

信頼と実績を積み重ね、『〇〇のことならこの人（団体）に』と言われる存在になることを目指していきたいと思いました。

03.

研修③ 地域とともに在るために

【訪問先】 特定非営利活動法人 育て上げネット
一般社団法人 LIFEIS
【研修講師】 青木智宏氏（ベネッセこども基金事務局長）

青木さんの研修の一環として、特定非営利活動法人育て上げネットさんと、一般社団法人LIFEISさんの+LAUGH(アンドラフ)という重症児者向け児童発達支援拠点を訪問しました。

●居場所のかたち、支援のかたち

育て上げネットさんは多岐にわたる若者支援の事業を展開されており、各事業ごとに行政からの委託部分、自主事業の部分、助成金や寄付による部分等、様々な財源で運営されていることで全体としてのバランスがとれており、目の前のニーズにしっかり対応したかたちで事業をおこなっていることが素晴らしかったです。寄付一つとっても様々な切り口での寄付集めをされていることが特徴的でした。企業さんへの提案の仕方、WIN-WIN関係のつくり方、信頼関係の築き方等、学びポイントも多く、何より点ではなく面で若者支援をされていること、それをしっかりと組織として機能させていることが、地域に必要な事業としての信頼とポジションを育てているのだと感じました。

●地域の中にどう存在するか



+LAUGH(アンドラフ)さんは、2023年グッドデザイン賞受賞施設でもあります。「医療的ケアが必要なことが障害ではない。医療的ケアが必要なことを理由に、生きにくさを感じさせる社会の仕組みが障害という概念を生んでいる」という考えのもと、立場や状況の異なるさまざまな人がより多くの人々の「日常」になるように、人が行き交う商店街の中に拠点を構えて駄菓子屋やフリースペースを併設した支援拠点をつくられていました。

不登校のこどもたちにおいても、地域の意識のアップデートができていないことにより、学校が開いている時間帯に人の目に触れることを避けるこどもたちも多く、このように開かれたかたちで自然に地域の中に存在していることや、地域社会の生活の一部となり人の役に立つ経験を当たり前に行うことができるのがとても理想的だと感じました。

04.

研修④ 松原明氏 相利協力講座受講

【場所】 長崎市内
【研修講師】 松原明氏（NPO法人 協力アカデミー）

市民活動センターランタナ主催 全4回の連続講座「地域の困りごとを相利協力で解決しよう」を受講しました。

●協力関係のつくり方

活動の中で地域との連携、行政との連携、そしてチームづくりやボランティアさんとの協力関係構築など様々な人間関係の課題を感じていた中、その突破口とも言える「相利協力」の考え方を教えていただきました。自分の活動を理解し協力してもらおうとするのではなく、立場や背景によってそれぞれ全く別の目的があり、それを洗い出してから重なる部分だけ、お互いに利がある状態を設計すればいい。この考え方に基づいて相利関係をイメージできたことで、人間関係がとてもスムーズになったという実感がありました。

活動に関するだけでなく、すべての人間関係に活かせる視点なので、親の会でよく聞くこどもや夫婦・先生との関わり方に関する悩みなどに対しても、この視点をお伝えできるようになりました。

今後も相利評価表や協力モデルキャンバスを使いながら、この学びを様々な場面に活かしていきます。

ゆめまあるでの そだちとまなび



ゆめまあるへ
ようこそ



みんなに
一番人気の遊びは
スライムづくり



今日のシェフは
誰ですか？



やりたいこと
いっぱい！
今日は何する？



ポカーン！！！！



ゆめまあるでは、こどもたちの自主性・主体性を大切にしています。「何をしても、何もしなくても大丈夫」の空気感がこどもたちの想像力豊かな遊びにつながり、小さな成功体験をたくさん積んでいます。「あの子の気持ち」「私の気持ち」どっちも大切。ここに来て人と関わりあうこと自体が大きな成長につながっているのです。

この1年を振り返って

【助成金による最大の成果】

助成金により今年度一番ありがたかったのは、子どもたちにあたたかい食事を提供できたこと、またその食事を一緒に作れたことです。

物価高騰が止まらない中、家庭の不安は増し、家に子どもがいることにいつも以上にストレスを感じてしまったり、毎日お昼ご飯を用意しなくてはいけないことが経済的にも精神的にも大きな負担となっていたからです。

今年度はおいしいご飯がどうやって作られているのかとレシピに興味を示す子、一緒につくる楽しさや、自分の役割があることの喜びを覚えた子、レシピを調べてきてお菓子をつくりみんなに振舞ってくれた子、食事ひとつを通してたくさんの成長ポイントが見られました。

他にも1年目はみんなの前で食べられなかった子が食べられるようになった、何も言わなくてもほとんどの子が自分でおかわりをよそったり、当り前に下膳をするといったシーンも増えてきました。

調理する姿を間近で見ること、においができてお腹が空くこと、当り前の家庭的な日常が知らず知らずのうちに感性を育み、毎日のようにあたたかいご飯を食べられることに、自然と感謝の心が育ってきているのだと感じています。

【人と関わり続けることで】

地域では不登校の人数が増え、ゆめまあるの認知度も上がり、次々と新しい人との出会いがあった1年でした。新しく体験にくる子や新しいボランティアさん、視察や撮影など、「知らない人」「イレギュラーなこと」「見られること」に抵抗のある子どもたちにとって負荷のかかることもたくさんありました。

はじめの頃は隠れるようにして関わることを避けていた子どもたちですが、ゆめまあるでの様々な成功体験や「失敗しても大丈夫」という経験を通して自信が生まれ、今では自分から人に興味を示し、玄関にお迎えに行ったり声をかけたりする姿も見られています。

【子どもたちが教えてくれたこと】

今年度は、初めて子どもたちにもアンケートをお願いしました。

これに対し全員が「いいよ」と快く回答してくれたこと自体も、以前では考えられないことでした。

さらに、内容に関しても一生懸命、そして正直に答えてくれたことを感じました。

この回答の中で「相談できない」「相談しない」と回答している子、自分のことを好きになれない子がいる事実を把握できたことはとても大きかったです。今後の課題としてしっかり受け止め、声にならない声にも心を寄せられるようにスタッフ一同努めていきたいと心を新たにしました。

【今後に向けて】

今年度はWAMシンポジウムにも登壇させていただき、これまでの振り返りや今後に向けた課題、団体や事業をしっかり継続させていくことをとても意識した1年でもありました。

学校というスタイルが合わないだけで自信を無くしひきこもってしまう子を一人でも減らし、安心して人と関われる場を通してしっかりと社会につないでいけるよう、今後やらなければいけないことはたくさんあります。

事業を行いながら継続の道をつくっていくことは決して簡単ではありませんが、視察研修で学ばせていただいたノウハウや知見も活かし、公的な支援が必要な部分に関しては制度設計につながるよう働きかけ、現場では民間の強みを活かし、それらを融合させてより多くの生きづらさを抱える子どもと親の受け皿となっていけるよう、行政との連携協力もさらに深めていきたいと思っています。

引き続き、あたたかな地域の中で子どもたちが自分らしく羽ばたけるよう、地域のみなさまのお力添えをよろしくお願いいたします。

本年度、WAM助成事業に携わってくださったすべての皆様に心より感謝を申し上げ、本報告とさせていただきます。





独立行政法人福祉医療機構
WAM助成 社会福祉振興助成事業



一般社団法人

かわたな夢キッズ

この報告書は独立行政法人福祉医療機構 WAM助成(R6年度補正予算)にて作成しました。



実施団体

一般社団法人 かわたな夢キッズ

代表理事 荒瀬奈穂子

〒859-3616 長崎県東彼杵郡川棚町3-27 AC棟7号

TEL：090-5022-2789

Mail：kawatana.yume.kids@gmail.com

<https://kawatana-yume-kids.com/>

